

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
1・2年前期	1・2	2	選択
担当教員			
建築学科教員			
添付ファイル			

講義概要	建築学は、人々の営みを中心にかなり広範囲な分野を学習する。ここでは、学部で学習した各分野の内容から最新の研究までを繋げて、各講師がオムニバス授業として解説する。 講師は建築学コース教員と外部講師によって行われる。		
授業計画	1	建築計画・デザインと研究1（脇坂） 現代社会が抱える課題に関して、建築計画・デザインが果たす役割と必要性を理解するため、事前に提示されたトピックを元に、リサーチを元にした発表と課題解決に向けた討議を行う。	
	2	建築計画・デザインと研究2（脇坂） 現代社会が抱える課題に関して、建築計画・デザインが果たす役割と必要性を理解するため、事前に提示されたトピックを元に、リサーチを元にした発表と課題解決に向けた討議を行う。	
	3	高強度材料の開発と超高層集合住宅への適用（渡辺） 近年、コンクリートや鉄筋などの材料の高強度化が進められ、50階を超えるような超高層集合住宅が建設されている。高強度材料の現状と実施適用状況を解説する。	
	4	住宅のコンセプトとディテール1（田井） 住宅建築を通して、建築全体のコンセプトとディテールの相関関係について解説する。1990年から2010年までの日本の住宅建築について俯瞰する。 参考教科書として「現代住宅の納まり手帖」（伊藤博之・川辺直哉・田井幹夫・松野勉・共著）を使用する。（2回通し）	
	5	住宅のコンセプトとディテール2（田井） 住宅建築を通して、建築全体のコンセプトとディテールの相関関係について解説する。1990年から2010年までの日本の住宅建築について俯瞰する。 参考教科書として「現代住宅の納まり手帖」（伊藤博之・川辺直哉・田井幹夫・松野勉・共著）を使用する。（3回通し）	
	6	環境設計の最新動向（住宅編）（石川） 住宅は、建築物の他用途とエネルギー消費傾向が大きく異なる。利用用途が住宅の際、地域ごとに求められる環境性能を具体的に設定した『住宅省エネルギー技術 設計施工編』（（一社）木を活かす建築推進協議会）を参考に、住宅の環境設計の最新動向の他、ZEHからコミュニティZEHや断熱リノベ、次世代建材、災害対応家庭用蓄電池等、著しい展開を学ぶ。	
	7	環境設計の最新動向（非住宅編）（石川） 建築物はその用途によってエネルギー消費量が大きく異なる。利用用途が事務所や学校などの非住宅の際、環境性能を具体的に設定した『ZEBガイドライン』（（一社）環境共創イニシアティブ）を参考に、非住宅用途の環境設計の最新動向、地域に応じた環境設計の具体例等、先駆的な研究実践例を学ぶ。	
	8	建築史の視点 / 中国都城の系譜（林） 西洋および日本とは異なるアジアの建築を知ることで、人類がどのように建築を理解し、それを造ってきたか、建築文化の広がり多様性を理解することを目的として、アジアの歴史的建造物の具体的な事例を学ぶ。その事例のひとつとして、中国都城の系譜について解説。	
	9	ベトナム・フエの伝統木造建築（林） 上記と同様に、アジアの歴史的建造物の具体的な事例のひとつとして、ベトナム・フエの伝統木造建築の概要とその調査研究方法について紹介する。	
	10	建築基準法施行令の設計法および鉄筋コンクリート造建物の靱性保証型耐震設計指針（崔） 建築物の耐震設計の基本となる建築基準法施行令について、その構造規定や計算の流れを紹介し、建築基準法施行令の全体像をつかめるようにする。また、建築物の目標耐震性能に着目した鉄筋コンクリート造建物の靱性保証型耐震設計指針における設計方針や設計の流れを紹介し、性能確認型設計方法の流れをつかめるようにする。	
	11	鉄筋コンクリート造建物の耐震性能評価指針（崔） 1995年に発生した兵庫県南部地震による被害の教訓から、建築物の性能評価型設計法が導入されることとなった。その設計法をまとめた鉄筋コンクリート造建物の耐震性能評価指針について、性能評価の手順や各項目の計算方法を紹介し、最近の耐震性能設計法の流れをつかめるようにする。	
	12	人間にとって、建築とは何か1（外部講師） 建築を創ることを学ぶ私たちにとって、現在の状況だけでなく、建築の初源に戻ってその意味を考えてみることは重要だ。700万年の人類の歴史のなかで、ヒトはなぜ、どのように建築を生み出してきたかを2回にわたって皆さんと考えてみたい。	
	13	人間にとって、建築とは何か2（外部講師） 同上	
	14	技術開発の最前線（渡辺） 建築技術の開発は日進月歩である。特にエンジニアリング系（構造・材料や環境・設備）分野では活発な技術開発が行われている。最新の技術開発事例を紹介・解説する。	
	15	鉄筋コンクリート構造の最新の研究（外部講師） 建鉄筋コンクリート架構の研究も年々進化している。特に部材関係では高強度な鉄筋やコンクリートを用いている。そのような研究の現状とPCaPC(PC圧着工法)やRCSなどの新しい構造の研究の現状を紹介する。 学部生の時用いた鉄筋コンクリート構造の教科書を持参のこと。	

授業形態	講義、討議を基本とする。輪講を課すこともある。
達成目標	・総合的に建築学を理解する。 ・建築計画（住宅、歴史）関連を理解を深める。 ・耐震構造について理解を深める。 ・建築環境について理解を深める。
評価方法・フィードバック	毎回の授業でレポートを課し、総合点で評価する。
評価基準	総合点が100点満点で60点以上の者に単位を与える。秀：100点～90点、優：89点～80点、良：79点～70点、可：69点～60点、不可：59点以下
教科書・参考書	各講師が授業計画で示している図書を用いる。
履修条件	学部での基本的な建築の知識を有していること。 英文のテキストを使用することもあり、英文読解力が必要。
履修上の注意	講義のノートは確実にとること。
準備学習と課題の内容	各講師の授業計画を十分理解すること。 事前学習（宿題）等ある場合は、必ず行っておくこと。
ディプロマポリシーとの関連割合（必須）	